

## 少量土壌培地耕

少量土壌培地耕は農業技術振興センターが開発した滋賀県独自の養液栽培技術です。

養液栽培は土壌からの開放を目的に開発された技術ですが、少量土壌培地耕はわずかな土壌を培地として使うのが特徴です(図1)。

緩衝能のある土壌を培地に用いることによって、作物の生育が安定し、簡易な設備で肥料の循環利用を可能としています。

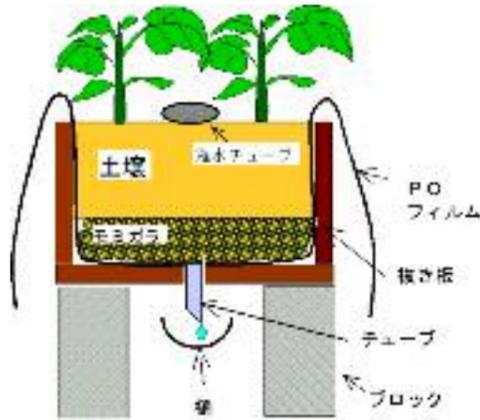


図1 栽培床の構造

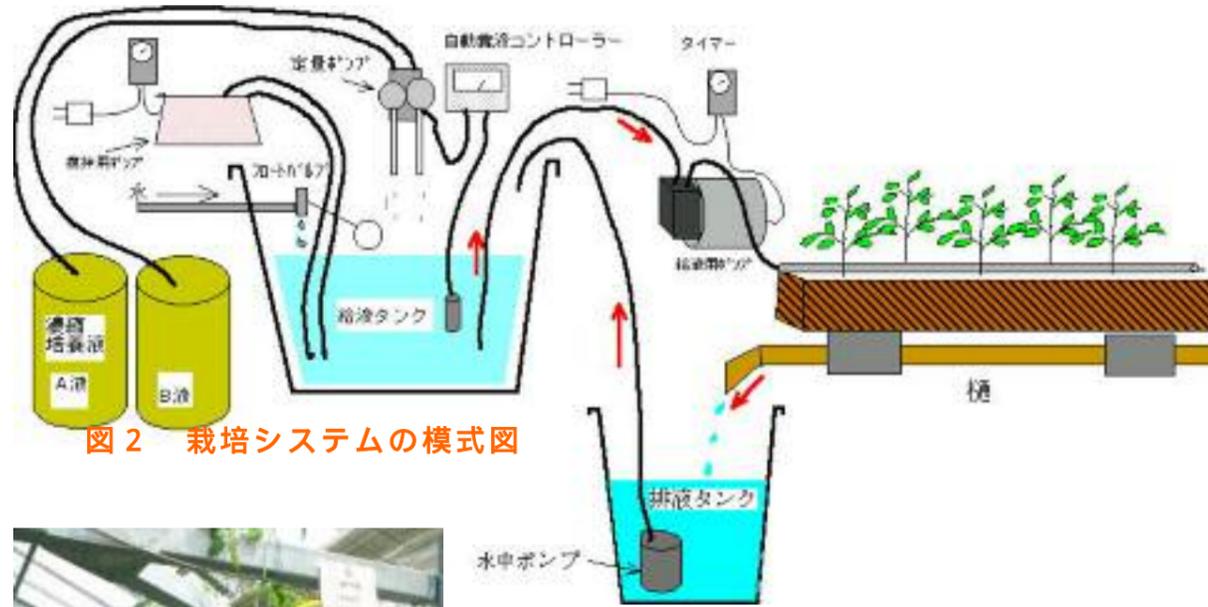


図2 栽培システムの模式図



15年間培地を換えずに栽培。長期間にわたる連作も大丈夫。



少量土壌培地耕によるイチゴの高設栽培。かがみ作業がなく栽培管理が楽になった。

## 少量土壌培地耕の特徴とメリット

**環境にやさしい栽培システムです。**

排水は回収して肥料分を循環利用し、外部にまったく排出することがありません。最後は水だけを流して土壌に残った肥料分も作物に吸収させます。

**連作障害が回避できます。**

連作障害の原因は、土壌病害虫または吸収されなかった肥料分の蓄積とされています。少量土壌培地耕は肥料の集積がなく、土壌病害から隔離できます。たとえ、病気が侵入しても、太陽熱で消毒したり、土の入れ替えで対処することができます。

**きつい作業から開放されます。**

堆肥を入れるなどの土づくりをする必要がありません。植え替え作業は植穴を開けて苗を差し込むだけです。イチゴ栽培は背筋を伸ばして作業ができ、収穫・管理作業が非常に楽になりました。

**初めての人でもベテランと同等の品質、収量が得られます。**

栽培の管理がマニュアル化されており、生育のコントロールが容易なシステムであるため、初めての人でも安心して栽培できます。

**導入コストが安い。**

栽培システムの構造が単純であるため、農家が自家施工できます。他の循環型栽培システムに比べて2分の1以下の経費でも導入が可能です。

## 少量土壌培地耕システムの普及状況

上記のメリットが評価され、普及面積は図3のように順調に増加しています。特にイチゴは軽作業化の効果が大きいため、最も導入面積が多く、本県の施設イチゴの約9割を本システムによる栽培が占めています。

## 少量土壌培地耕技術は滋賀県の野菜生産の維持拡大に大きく貢献しています

連作障害のため栽培をあきらめざるを得なかった農家でも栽培が可能となりました。

野菜栽培に初めて取り組む方の導入が増えています(新規就農者にも適します)。

定年帰農者や女性の取り組みも増えています。

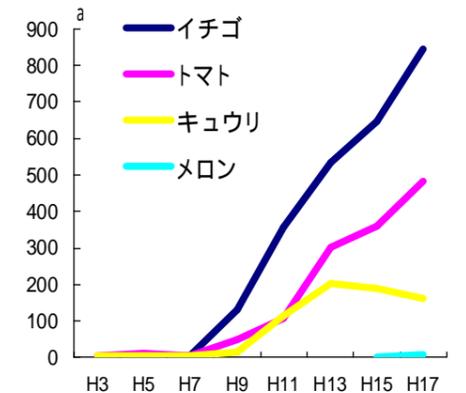


図3 品目別導入面積の推移